

第三期守口市子ども・子育て支援事業計画作成に係るニーズ調査の概要

I 調査の実施概要

調査期間		令和6年1月31日から2月29日				
調査方法		郵送による配布・郵送回収及びWeb回答				
調査対象と回収状況		配布数	有効回収数			有効回収率
			郵送		Web	
	就学前児童がいる世帯	1,500 件	805 件	385 件	420 件	53.7%
	就学児童がいる世帯	1,500 件	748 件	392 件	356 件	49.9%
合計		3,000 件	1,553 件	777 件	776 件	51.8%

II 就学前調査結果のポイント

1. 保護者の状況

■父親の育児参加は増加傾向の一方で、父親の就労時間が長く育児・家事時間の差は大きい。

- （就学前/問7/P6）子育てを主に行っている人は、前回調査と比べると「お父さんとお母さん」が増加しています。
- （就学前/問8/P6）緊急時もしくは用事のあるときに子どもをみてもらえる人として「自身や配偶者の親、親せき」を挙げた人が62.5%ですが、緊急時にも日常的にも見てもらえる親や友人がいない人が15.0%となっています。
- （就学前/問9/P7）9割以上の人は相談する人や場所がありますが、ない人が7.1%となっています。
- （就学前/問10/P10）育休中も含めてフルタイムで働いている母親は、前回調査に比べて10ポイント以上高くなっています。0歳児の母親のうち4割は育休中となっています。
- （就学前/問10-1、10-2/P12）父親の1日当たり就労時間をみると、10時間以上が4割近くになっています。それに伴い、父親は母親に比べて朝早く家を出て、夜遅く帰ってくる状況です。
- （就学前/問12-1/P28）病気で教育・保育施設を利用できなかった際の対応では、「母親が仕事を休んだ」が最も高いですが、前回調査に比べて「父親が仕事を休んだ」が大きく増えています。リモートワークの活用が増えたことが影響していると考えられます。

2. 保育・教育サービスの利用意向

■病気のときも普段通っている教育・保育施設でみてもらいたい、夏休みも幼稚園に通わせたい。

- （就学前/問12-2、12-3/P31）病児・病後児保育施設の利用意向は前回調査と比べると14.0ポイント高くなっています。また、普段通っている保育施設でみてもらうサービスを希望する人が20ポイント近く高くなっています。
- （就学前/問15/P42）長期休暇中の幼稚園の利用意向は「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が31.1%で前回調査と比べると、14.1ポイント高くなっています。
- （就学前/問29/P79）子育て支援サービスの認知度では、園庭開放、児童センター、子育て支援情報誌などの認知度が前回調査よりも高くなっている一方で、子育て世代包括支援センターほかの認知度が低くなっています。利用意向は前回調査とほとんど変わっていません。

3. 仕事と子育ての両立

■仕事と子育ての両立支援は母親・父親ともに必要。

- （就学前/問16、16-1/P44）育児休業を取得した人は、母親、父親とも前回調査に比べて増加しています。また、母親は「育児休業を取ったあと、職場に復帰した」も高くなっています。
- （就学前/問17、問18/P50）平日に子どもと一緒に過ごす時間は、母親と父親では差が大きく、母親は、子どもと一緒に過ごす時間が『十分だと思う』割合が前回調査と比べて低くなっています。1日の家事時間も母親と父親では差が大きくなっています。
- （就学前/問19/P53）両立の課題は、子どもや自分が病気の時に代わりに子どもをみてる人がいないことが65.1%で最も高くなっており、前回調査と比べて8.9ポイント高くなっています。

4. もりぐち児童クラブの利用意向

■低学年は「入会児童室」、高学年は「登録児童室」の利用意向が上昇。

- （就学前/問20/P54）小学校低学年の放課後の過ごし方は、「もりぐち児童クラブ『入会児童室』」が50%を超えており、前回調査と比べて20ポイント近く高くなっています。地域別では、南部と中部で希望が高くなっています。
- （就学前/問21/P57）高学年になると「自宅」と「習い事」の割合が高くなりますが、「もりぐち児童クラブ『登録児童室』」の利用意向は前回調査と比べると約10ポイント高くなっています。地域別では、南部と中部で「もりぐち児童クラブ『登録児童室』」が高くなっています。

5. 市役所などへの要望

■希望するのは、遊び場の充実、医療体制、経済的援助の拡充。

- （就学前/問30/P80）充実を希望する子育て支援サービスは、「親子が安心して集まれる公園などの屋外の施設を整備する」「小児救急など安心して子どもが医療機関を利用できる体制を整備する」「育児休業給付、児童手当の拡充、扶養控除の維持などの子育て世帯への経済的援助の拡充」の順に高くなっています。また、「相談体制の充実」は前回調査よりも8.3ポイント高くなっています。

6. 子どもの生活習慣

■就学前児童の生活習慣に大きな変化はみられない。

- （就学前/問31/P83）子どもの生活習慣は朝食摂取状況、共食ともに前回調査よりも改善しています。スマートフォンの利用時間はやや長くなっている傾向です。就寝時刻は、前回調査と比べて、やや早くなっています。

7. 子どもの遊び場

■満足度は高まっているが、雨の日に遊べる場所の少なさが不満。

- （就学前/問33、問34/P86）遊び場に関する満足度は、前回調査と比べて約20ポイント高く、遊び場について感じていることは「雨の日に遊べる場所が少ない」が74.8%で最も高く、前回調査と比べて10ポイント高くなっています。それ以外の項目はすべて前回調査よりも低くなっています。

8. 子育てに対する意識

■近所の人との関係の希薄化がうかがえ、通園施設や支援施設の職員の支えが期待されている。

- （就学前/問35/P88）子どもの話や世間話をする人がいる割合は、前回調査と比べると9.2ポイント

低くなっています。

- （就学前/問36-1、問36-2/P89）子育てに有効だと感じる支援、子育てのつらさを解消するために必要な支援ともに「仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備」が最も高く、前回調査と比べても高くなっています。
- （就学前/問37/P91）子どもに関する悩みは、「食事や栄養に関すること」「子どもの教育に関すること」「病気や発育発達に関すること」が3割を超えています。保護者自身に関する悩みでは、「子育てにかかる出費がかさむこと」「自分の時間が十分取れないこと」「子育てによる身体の疲れが大きいこと」が高くなっています。前回調査と比べて、これら上位の項目の割合が10ポイント前後高くなっています。
- （就学前/問38/P93）自分の子育てが地域の人に支えられていると感じる人は6割で前回調査と比べて変化はみられません。支えられていると感じるのは、前回調査と比べて「認定こども園・幼稚園・保育所や地域子育て支援拠点などの職員」が増加した一方で「近所の人」は11.8ポイント低くなっています。支えてほしいのは、前回調査と比べて「認定こども園・幼稚園・保育所や地域子育て支援拠点などの職員」は9.4ポイント高くなっています。

Ⅲ 就学児童（小学生）調査結果のポイント

1. 保護者の状況

■就学前児童と同様に、父親の育児参加は増加傾向の一方で、父親の就労時間が長く育児・家事時間の差は大きい状況です。また子どもを預かってもらえる人がいない、フルタイムで働く母親の増加も就学前児童と同じ傾向です

（就学児童/問6/P99）（就学児童/問7/P100）（就学児童/問8/P100）（就学児童/問9/P103）（就学前/問9-1、9-2/P105）

2. もりぐち児童クラブについて

■「入会児童室」利用者は、高学年になっても「入会児童室」または「登録児童室」の利用希望が高い。

- （就学児童/問12/P112）前回調査と比べると、もりぐち児童クラブ「入会児童室」を「利用している」はわずかに高くなっています。子どもの年齢が低くなるほど「利用している」の割合は高くなる傾向で6歳は約5割となっています。地域別では南部で「利用している」が高くなっています。
- （就学児童/問13-4/P120）もりぐち児童クラブ「入会児童室」を利用者の小学4年生以降の希望は、『入会児童室』に次いで『登録児童室』が高く、「『登録児童室』を利用したい」は前回調査と比べて13.6ポイント高くなっています。東部では『登録児童室』が約6割と高くなっています。

3. 仕事と子育ての両立

■就学前児童と同様に子どもと一緒に過ごす時間と家事時間は母親が長く、仕事と子育ての両立支援は母親・父親ともに必要です。また、両立の課題も就学前児童と同様に、病気のときに代わりに子どもをみってくれる人がいないことがあげられています。

（就学児童/問18、問19/P139）（就学児童/問20/P142）

4. 市役所などへの要望について

■経済的援助の要望が高まっている。

- （就学児童/問21/P143）充実してほしい子育て支援サービスは、経済的援助の拡充以外は前回調査と比べて低くなっています。

5. 子どもの生活習慣について

■スマートフォンの利用時間の利用時間が長くなり、就寝時刻が遅くなっている。

- （就学児童/問22/P144）朝食摂取状況、共食ともに前回調査からわずかに低下しています。スマートフォンの利用時間は長くなっている傾向で、就寝時刻は、前回調査と比べて、遅くなっています。

6. 地域での自然体験などへの参加などについて

■地域における体験活動への参加が減少傾向。理由は活動への関心低下と時間帯が合わないことが増加。

- （就学児童/問25/P148）活動への参加は前回に比べて低下傾向で、「参加したことがない」が10ポイント以上高くなっています。
- （就学児童/問25-1/P149）参加しない理由では、「活動の内容に興味や関心がない」が41.2%で最も高く、「参加の時間帯が合わない」とともに前回調査よりも高くなっています。
- （就学児童/問26/P150）活動の参加意向は、「体験学習活動」「スポーツ活動」「野外活動」の上位3項目は前回同様で割合もほとんど変わりません。「地域の活動」は前回調査に比べてやや高くなっています。

7. 子どもの遊び場

■就学前児童と同様に、満足度は上昇しているが、雨の日の遊び場に不満。

- （就学児童/問27/P151）（就学児童/問28/P152）遊び場に関する満足度は、前回調査と比べると12.6ポイント高くなっています。感じていることでは、「雨の日に遊べる場所が少ない」が特に高くなっています。前回調査と比べると、すべての項目の回答割合が前回調査よりも低くなっています。

8. 子育てに対する意識について

■両立しやすい職場環境の整備と子どもの居場所づくりが必要。教員の支えに期待が大きくなっている。

- （就学児童/問29/P153）子どもの話や世間話をする人がいるのは、前回調査と比べるとわずかに低くなっています。
- （就学児童/問30/P153）子育てを「楽しいと感じることの方が多い」がわずかに増加している一方、「つらいと感じることの方が多い」もわずかに増加しています。
- （就学児童/問30-1、問30-2/P154）「仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備」ともりぐち児童クラブの充実は、子育てに有効、つらさを解消するために必要の両方で、前回調査よりも増加しています。
- （就学児童/問31/P156）子育ての悩みは、子どもに関することでは、「子どもの教育に関すること」「子どもの友だちづきあいに関すること」が4割前後で高くなっています。保護者自身に関することでは、「子育てにかかる出費がかさむこと」が5割近く、前回調査と比べて増加しています。
- （就学児童/問32/P158）地域の人に支えられていると「感じる」が前回調査と比べてやや低くなっています。支えられているのは、「学校の先生」が前回調査よりも高くなっている一方で「近所の人」は低くなっています。支えてほしいのは、「学校の先生」が前回調査よりも高くなっています。